

親と子の対話がつくるよい社会 (青少年をめぐる環境浄化運動)			
久が原地区管内	男	11,934人	
	女	11,990人	
人口	計	23,924人	
世帯	10,385世帯		
平成10年 3月1日現在			

# くがはら

発行：わがまち大田久が原地区  
推進委員会  
編集委員：「くがはら」編集委員会  
事務局：大田区久が原特別出張所  
〒146-0085 大田区久が原2-19-3  
(37752) 4271

『築こう明るい社会を』  
大田区明るい社会づくり運動の会では、豊かな人づくりを地域社会の中で推進する支援のバザールを2月8日(日)に蒲田小学校で行いました。当久が原地区でも、先に西部八幡境内や安詳寺周辺の清



掃(落葉拾いと焼芋の催し)を行っていましたが、このバザールにもこぞって参加し、区内有志の方々との交流を深め、大きな成果を上げることができました。  
これからも地域の皆様と共に、力をあわせて明るい街づくりに励んで参ります。  
(川又 浩)

「三つ子の魂百まで」と言われるように、幼児期は人間形成の基礎をつくる時期です。本園では、「ボランティア教育」の実践研究園としての機会に恵まれました。そこで、「人に感謝する気持ち・人の役に立つことを喜ぶ気持ち」を視点に、体験を通してボランティア精神の芽を伸ばしてまいります。

園内では父親の保育参加、耳の聞こえない方との交流、手話の学習等も行いました。この他にも、園児のために、青少年をはじめ、近隣の方々に様々なご協力をいただいております。その優しさの一つ一つに感謝の気持ちを込めて考えます。

## 大田区立松仙幼稚園

『たくさん、たくさん、ありがとうを!!』

総力をあげて取り組んで来たボランティア教育

◎はじめに  
「三つ子の魂百まで」と言われるように、幼児期は人間形成の基礎をつくる時期です。本園では、「ボランティア教育」の実践研究園としての機会に恵まれました。そこで、「人に感謝する気持ち・人の役に立つことを喜ぶ気持ち」を視点に、体験を通してボランティア精神の芽を伸ばしてまいります。

また、花や大根を育てる、小動物の世話をする子どもの姿に、努力を惜しまない態度が見られ、「自分のできることを意識し活動する姿に、子どもたちの成長を実感します。  
園長 中山博子)



△大田区体育協会  
永年勤続特別功労者  
奈良 繁夫(東自治会)  
△消防団表彰  
「消防総監賞」  
柿藤 陽一(西自治会)  
「消防署長賞」  
中嶋 昇 夫妻(東自治会)  
三木 清 夫妻(東自治会)  
小竹 弘司(東自治会)  
本間 敏雄(西自治会)  
「大田区長賞」  
大森第十中学校

△大田区体育協会  
永年勤続特別功労者  
奈良 繁夫(東自治会)  
△消防団表彰  
「消防総監賞」  
柿藤 陽一(西自治会)  
「消防署長賞」  
中嶋 昇 夫妻(東自治会)  
三木 清 夫妻(東自治会)  
小竹 弘司(東自治会)  
本間 敏雄(西自治会)  
「大田区長賞」  
大森第十中学校

### 卒業記念講演会 大森第十中学校

#### 『チャレンジを 恐れるな!』 講演者 青島健太

現在テレビで活躍中のスポーツライター青島健太さんを迎えて、体験談を通じて、人々への感動をうかがった。  
青島さんが、31才までの野球生活の中から得たことは、「不可能なことはあるが、挑戦しないことはない」と言い、いことか、だという。外見の元気はいくらでもつくろえる「自分の得意なことを意識し活動する姿に、子どもたちの成長を実感します。」

△大田区体育協会  
永年勤続特別功労者  
奈良 繁夫(東自治会)  
△消防団表彰  
「消防総監賞」  
柿藤 陽一(西自治会)  
「消防署長賞」  
中嶋 昇 夫妻(東自治会)  
三木 清 夫妻(東自治会)  
小竹 弘司(東自治会)  
本間 敏雄(西自治会)  
「大田区長賞」  
大森第十中学校

△民生・児童委員表彰  
「都知事一般功労賞」  
新保 靖男(東自治会)  
竹林 寛(西自治会)  
△大田区社会福祉協議会  
感謝状  
「会員増強功績者」  
宮田 篤二(東自治会)  
三木 清治(西自治会)  
「高額寄付者」  
久が原西自治会リサイクル部  
△防犯功労表彰  
小川 博(西自治会)  
谷 逸作(西自治会)  
中嶋 元治(西自治会)



が、頭の中にあるエネルギーをいかにやる気にもつていくか。  
何かを始める前は夢がふくらむが、いざ始めると元気がなくかげん「どうでもよくなる」「自分が信じられない」ということがあつた。  
青島さんが、31才までの野球生活の中から得たことは、「不可能なことはあるが、挑戦しないことはない」と言い、いことか、だという。外見の元気はいくらでもつくろえる「自分の得意なことを意識し活動する姿に、子どもたちの成長を実感します。」

けやきの葉の芽も、桜の花の蕾もぐんぐんふくらみ始めている久が原の町を、赤いサンバイザーをかぶった3、4人のグループ29組が、西部八幡神社を起点に、東へ西へ南へ北へリターン(久が原ジュニア7年目、とうとう一本立ちしました。昨年11月に開かれた久が原の歴史を知る文化懇談会につながる、町探検の行事です。この日、家族・友達・知人に、わが町久が原の、改めての発見の一時を楽しみました。  
(新井信子)



### 私達の町を歩いて知ろう 『アタツクくがはら』 3月21日 青少年対平成9年度最終行事

